

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 29 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/29 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	28.6	3.4 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	35.9	7.52 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	35.0	0.21 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/29 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.1
3号機	循環冷却システム	運転中	21.9
4号機	循環冷却システム	停止中	21.8

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドの注水を適宜実施。

### [4号機]

・9/29 5:17 ~ 使用済燃料プール代替冷却系について、当該系の循環冷却設備電源切替盤の点検を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:21.6)。停止期間は約 39 時間を予定しており、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.263 /h であることから、停止中のプール水温上昇は最大で約 34 と評価しており、運転上の制限値 65 に対して余裕があるため、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/27 14:41 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 13:33 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/29 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>	A、B系 ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/8/20 ~ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

・H26/9/27 10:45 ~ 増設多核種除去設備B系において、RO濃縮塩水を用いた系統試験(ホット試験)を開始。運転状態については、漏えい等異常がないことを確認。

## < 5. その他 >

・8/29 12:45 頃 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材(鉄板高さ30cm程度)と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。

なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。

8/12 ~ ドライアイスを追加で投入開始。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/9/26 12:48 頃 構内の車両サーベイ場において、停車していた車両に別の車両が接触する事故が発生し、接触した車両より油らしきものが滴下していると緊急時対策本部に連絡があった。漏えい範囲は、約20cm×約20cm。油らしきものは5秒に1滴程度で滴下していたため、吸着材により処置を実施。13:20現在、油らしきものの滴下が停止していることを確認。また、滴下した油らしきものは吸着材による処置を完了。

その後の調査の結果、接触した車両のエンジン下部に油のにじみを確認したことから、9/26に滴下が確認された油らしきものはエンジンオイルであると判断。双葉消防本部より「危険物の漏えい事象である」との判断をいただいた。また、現場確認により、漏えい範囲は車両の冷却水とエンジンオイルが混合した状態で約1.5m×0.2mの範囲であることを確認。

### 【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

・地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日9/19]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認したことから、9/28 9:50 ~ 15:37 海洋への排水を実施。排水量は1,422m<sup>3</sup>。

### 【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

#### < H4エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。  
(暴風警報発令により、9/25の試料の採取は中止。)

#### < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### < H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。  
(暴風警報発令により、9/25の試料の採取は中止。)

### 【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

#### < 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

#### < 地下貯水槽サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。